

# 学校図書館支援センターだより

新居浜市教育委員会学校教育課  
新居浜市一宮町一丁目5番1号  
TEL (0897)65-1301

## 2023年 第77回「読書週間」について

### 期間

令和5年10月27日(金)～11月9日(木) ※文化の日を中心に2週間

### 標語

私のペースで しおりは進む

### ポスター

#### 〈作者のことば〉（応募数671点の中から選ばれました）

しおりがなかなか進まない本もあれば、一気に読んでしまう本もあり。読み終えればどちらも、充実感や感動を得ることができます。これからも心に残る物語との出会いを求めて、私のペースで読書を楽しみたいと思います。



### マーク



この鳥は 何でしょう？

#### 〈由来〉

その昔、ギリシャ神話の世界で「ふくろう」は、学問・技芸・知恵を司る美貌の女神アテナの使者であり、また、代表的なポリスで文化の中心地アテナイ（アテネ）の聖鳥でもありました。

古代のギリシャ人たちは、賢そうな丸い目ですまし顔の「ふくろう」を知恵の象徴として大切にしていたといいます。

森の奥ふかく、静かに瞑想にふけるこの「ふくろう」の姿こそ、読書週間のシンボルマークとしてもっともふさわしいものと考え、読書推進運動協議会では長い間使用してきました。

### 歴史

終戦まもない1947年（昭和22）年、まだ戦火の傷痕が至るところに残っているなかで「読書の力によって、平和な文化国家を作ろう」という決意のもと、出版社・取次会社・書店と公共図書館、そして新聞・放送のマスコミ機関も加わって、11月17日から、第1回『読書週間』が開催されました。そのときの反響はすばらしく、翌年の第2回からは期間も10月27日～11月9日（文化の日を中心にした2週間）と定められ、この運動は全国に広がっていきました。

『読書週間』は、日本の国民的行事として定着し、日本は世界有数の「本を読む国民の国」になりました。

『読書週間』が始まる10月27日が、「文字・活字文化の日」に制定され、よりいっそうの盛りあがり、期待いたします。

『こども読書週間』は1959年に始まり、「こどもの日」をはさんだ、4月23日～5月12日の3週間です。

## 学校司書会での研修

図書館支援センターでは、学校司書の研修として、学校司書会を行っています。年間10回程度、学校司書の担当持ち回りで、テーマを決めて学校図書館のより有効な活用方法や、読書活動の推進に努めています。

今回は、8月に高津小学校の図書館で実施した学校司書会について紹介します。普段は、授業日になるので1時間20分程度の短時間しかとれませんが、今回は午前中3時間の司書会でした。

新居浜市教育委員会 高橋教育長も参加してくださいました。

### 新居浜市教育委員会 高橋教育長のあいさつ

学校図書館の方向性を話してくださいました。

『図書館は○が□になるところ』 「○」には「？」 「□」には“！”

子どもたちの“？”が、学校図書館を利用することにより“！”になる。

子どもたちの「読書が楽しい」「図書館に行きたい」という気持ちを高める。

先生方の図書館を利用したいという意識を啓発する。

国語科の教科書に出てくる内容の並行読書を活発にする。



### 2学期の授業支援の提案（一人3分程度）



アーノルド・ローベルのブックトーク



図書館での言葉探し



慣用句ブック作り



学び方ノートの活用と伝記の読み方



日本の伝統文化について



教科・単元による授業支援の仕方

### ワークショップ～新聞の活用について～



#### 〈NIE（エヌ・アイ・イー）教育〉

8月に第28回NIE全国大会松山大会が開催されました。新居浜市の学校図書館には、小学生向けの新聞がいつでも読めるように新聞コーナーを設置しています。

今回は、一人一人が新聞の記事を読んで、見出しを付けるワークショップを行いました。見出しを付けることは、内容を十分に理解しないとできないので、じっくり読んで考えて表現する力が付きます。また、正解が一つではないことも大切なことです。



8名の学校司書が切磋琢磨しながら、新居浜市の学校図書館の活性化に努めています。